

言の葉に乗せて—地底手紙博物館—



405739 山田佳奈 I

はじめに
人間は言葉を抱えて生きている。
自分の思いを言葉にして人に伝える。
思いを伝えることで苦しみから解放されたり、自分を表現したり、楽しい時間を過ごしたり…
時には後悔するかもしれない。
だが、それが人間関係を築き人生を豊かにするため、人間らしく生きるため、とても大切な行為であると私は考える。

問題提起
近年、各分野での技術はめざましく進歩している。
情報伝達技術の進歩も例外ではない。
携帯電話などを使って、いつでもどこでも気軽に離れた場所にいる相手に情報を伝えることができる。
しかし、その気軽さ、便利さゆえに言葉を安易に相手に伝えてしまったり、
そんな経験をした人も少なくないだろう。

言葉が軽く扱われる。
そのことに人間自体を軽く扱ってしまう。
誰かを傷つけ、自分も傷つき、傷つけられる。

提案
かつて、離れた場所にいる相手に言葉を送る手段は手紙しかなかった。
郵便制度ができるよりも前から人々は相手に思いを伝えるべく、思いを言葉に託し手紙を書いた。
手紙は人間の純粋な気持ちから生まれた。

自分の手で気持ちを文字にする。
届ける時もカリカタするだけ、タイプライターだけでは違う。
自分の足で届けてもらう。
そんな流れの中で自分が書いた言葉と向き合うことができる。

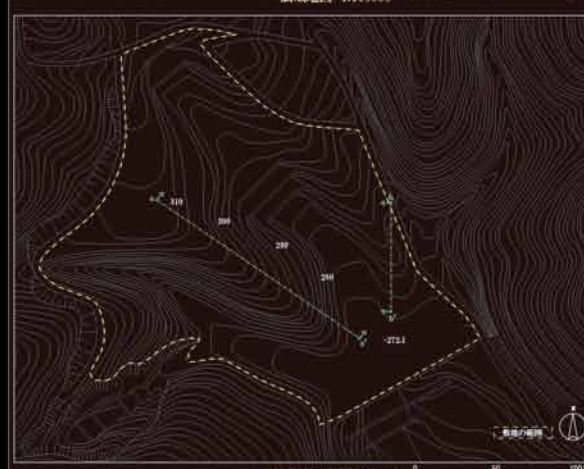
そんな手紙に出会い、その温かさ・大切さ・魅力を感じ、言葉の持つ力を感ぜられるような施設。
手紙を通してその中にある言葉との付き合いを見つめなおせる場所。
そんな手紙の博物館をこの言葉の氾濫した現代に提案する。
さらに今まで捨てられなかった手紙と別れる場所、手紙を綴る場所を同じ敷地内に作る。

敷地の選定

●大切にしたいこと
この施設を訪れる人に、展示されている手紙を書いた人が手紙にこめた思いをしっかりと感じ理解してもらうこと。

⇒ 集中できる空間での展示 ⇒ 言葉の飛び交う場所ではなく静かな空間、情報が多く存在する都市部から離れた空間、 ⇒ 自然に囲まれた場所の中にその空間を作る

敷地概要



- 所在地(三重県鈴鹿市)概要
標高99.1mの人造ヶ谷の標高約27m地点に建設する
- アクセス(公共交通機関)「四日市南駅」から「東海バス」の三重交通バスで約55分「東」下車
「安土郡日守町」から「東海バス」の三重交通バスで約55分「東」下車
その他、徒歩で約15分、バス停約20分(徒歩約15分)
(自動車)東海自動車(四日市)から約10分(各名乗約20分、入庫上約20分)
- 敷地の地形(ハイキングコース)に突如現れる見違える風景。高い所まで上れば木々の緑が緑の色を見ることできる。
- 敷地に設けられたハイキングコース。敷地に合わせたハイキングコース。敷地を広く見渡せる。
- 敷地の地形(大小)2つの段差が歩き出し、静寂的な風景を作り出している。

高気流 約7m
高気流 約7m
高気流 約7m

高気流 約7m
高気流 約7m



言の葉に乗せて—地底手紙博物館— II

設計コンセプト

この敷地の最大の特徴である大小二つの尾根を生かし、集中できる空間を作る。敷地の場所だけではなく、視覚的に、空間的にさらに私たちが普段生活する言葉の氾濫した世界と切り離す。

↓

尾根という地形を利用して、土の中に空間を作る。

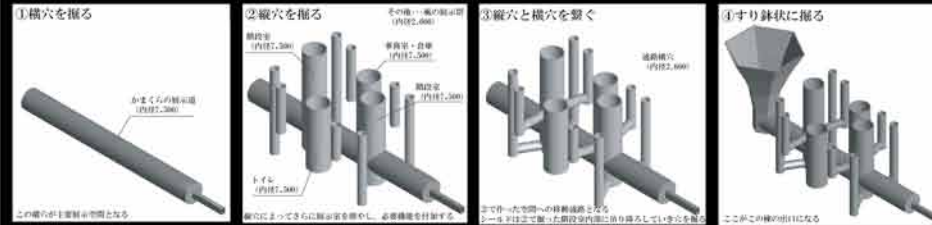
地上=言葉の氾濫、乱用が進行した世界
設計する地下空間=言葉を大切に扱う世界
この対比を光によって表現する



造形プロセス (主要展示棟)

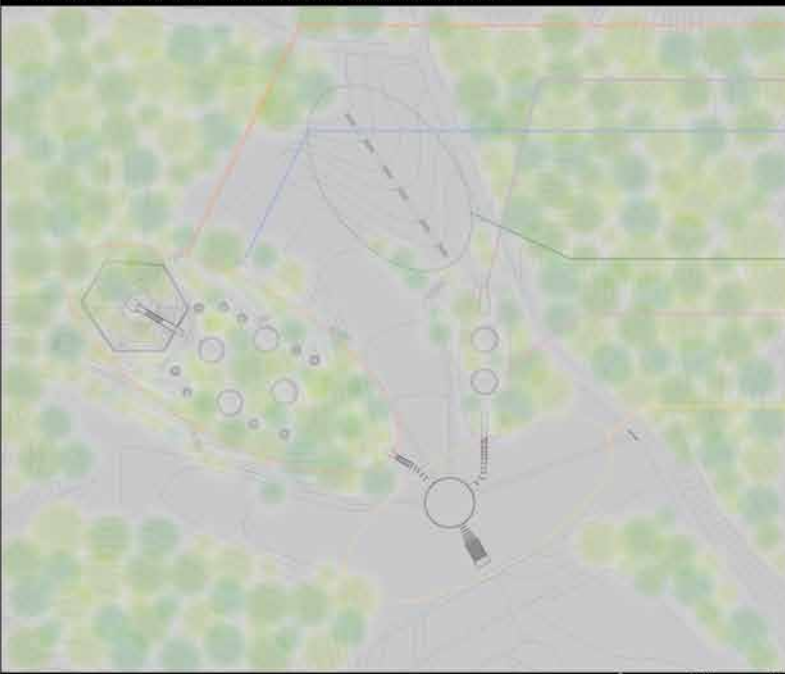
●①~③の工程は地下に空間を作るためまた土圧に対する耐力を確保するためシールド工法を採用
シールド工法によってトンネルの要領で建物外形を作る
よって構造は鉄筋コンクリート壁構造

●④はオープンカット工法を採用
コンクリート壁で表面を覆い土を押しさえる



建築物の機能

- 主な用途は手紙の博物館
- ・手紙と出会う—展示されている様々な手紙を読み、人々の間で昔から現在までどんな言葉が交わされているのかを目で見て心で感じる
 - ・手紙と別れる—捨てたくても捨てられない手紙、捨てないと前に進めない手紙などを供養する
 - ・手紙を綴る—ここに手紙を書きに来たり、ここに来て手紙が書きたくなくなった人のための場所を提供
 - ・手紙を送る—友達・家族・恋人などはもちろんのこと、未来の自分にも手紙を送れる



出会うの道
展示室にはかまぐら展示道と風の展示塔の二種類。
別れの道
手紙に込められた思いを供養し、手紙自体を火葬する場所。
綴りの道
出会うの道を出てからの帰り道でありハイキングコースでもある。思いを込めたり、手紙を書いたりできる場が用意されている。
手紙のお墓
別れの道で火葬した手紙を供養するためお墓を立てる場所。
カフェ
お茶と軽食が楽しめる。待ち合わせや休憩のための場所。またタイムカプセルの横に植える植物の販売所。
タイムカプセルの庭
未来の自分、未来の誰かに手紙を送るための場所。目印として自分の好きな植物の種や苗と一緒に手紙を地面に埋め、次に来た時に時間の経過を感じてもらう。埋められた思いが増えるほど庭は華やかになる。

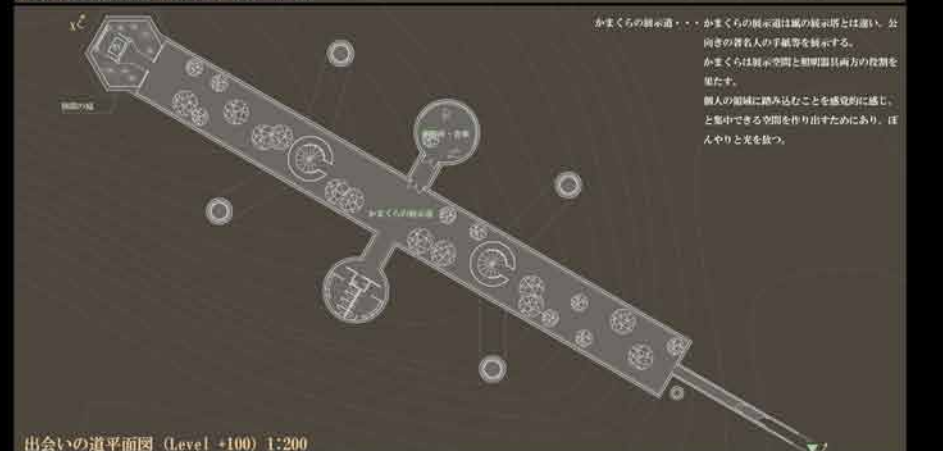
敷地面積: 36400㎡
床面積 出会うの道: 1053.60㎡
別れの道: 137.92㎡
カフェ: 31.60㎡
合計: 1223.12㎡

配置図 1:500



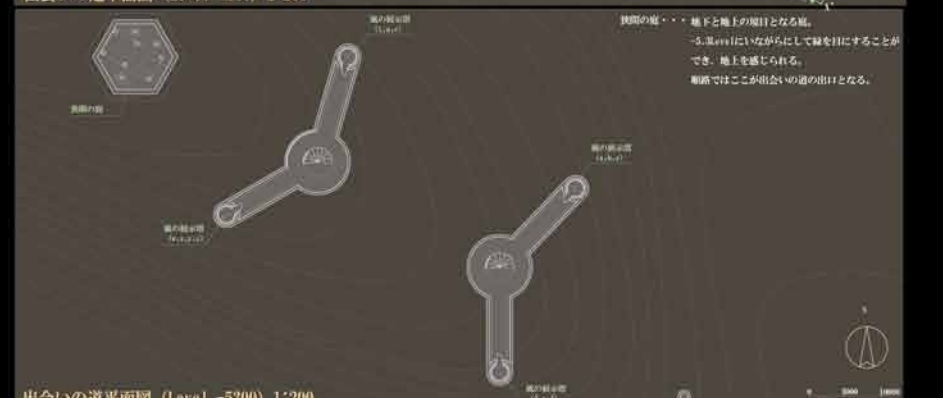
出会うの道平面図 (Level +8020) 1:200

風の展示塔・・・風の展示塔では著名人の手紙だけではなく、普通の人が日常やりとりした手紙を差出人の名前でだけ、アルファベットごとに括弧で風に集めて表示する。手紙を埋めて舞い上げ展示するのは、手紙は広く誰の目にもとまる展示方法ではなくその偶然に降りてきた手紙を手に取り、運命的に出会う展示方法にしたかったため。キャンペーンメールによって集められた大量の手紙の中から選ばれる。



出会うの道平面図 (Level +100) 1:200

かまぐらの展示道・・・かまぐらの展示道は風の展示塔とは違い、公向きの著名人の手紙等を展示する。かまぐらは展示空間と照明器具両方の役割を果たす。個人の顔面に読み込むことを感覚的に感じ、と集中できる空間を作り出すためにあり、ぼんやりと光を放つ。



出会うの道平面図 (Level -5300) 1:200

別れの庭・・・地下と地上の境目となる庭。一旦、Levelにいながらにして線を目にすることができ、地上を感じられる。別れ道はここが出会うの道の出口となる。

